

防災と空間技術で講習会

アジア航測(株)の畠氏ら講演

県地質協会、県コン協会

佐賀建設新聞

発行所
株式会社 建設新聞社
〒849-0301
小城市牛津町乙柳1145-7
TEL 0952-66-5750 (代)
FAX 0952-66-5751

▶あいさつする原理事長



(一社)佐賀県地質調査業協会(原裕理事長)と、(一社)佐賀県土木づくりコンサルタンツ協会(佐々木義文会長)は3日、佐賀市のアバンセで2020年度「防災と空間技術」講習会を開催した。会員企業をはじめ、国や地方自治体の職員、建設会社、建設関連会社の社員ら約90人が参加。アジア航測(株)九州支社長の畠周平氏ら4人が講演を行った。

▶講演を行う畠氏



冒頭、原理事長が「最新のセンシング技術に係る講演会を当初は2月に開催する予定だったが、コロナの影響で延期が続き9月の開催となった。全国で発生している土砂災害や豪雨災害の講習を加え、様々な事例を紹介する。最後まで聴講をお願いしたい」とあいさつした。

畠氏は「最新の国土空間情報に係るセンシング技術について」の演題で講演。現在の3次元計測ではドローン(UAV)や地上レーザなど多種多様なセンサが使用されていることを紹介した上で、「衛生レーザ、航空レーザなども常に進化している。AIによる空間情報の判読などの新技術も登場し、アメリカや中国などではドローンによる配達サービスも始まっている」と説明した。

このほか、講習会ではアジア航測(株)執行役員統括技師長の岡本敦氏が「激甚化する土砂災害とその対策」、アジア航測(株)福岡支店顧問の石橋浩氏が「九州地方における河川事業と最近の話題」、日本建設技術(株)代表取締役の原裕氏が「2019年8月の佐賀県豪雨災害と環境負荷低減」の演題でそれぞれ講演を行った。